

耐久高等学校

実施日時	令和4年3月16日（水）
参加者	生徒186名、教職員13名 計199名
実施内容	湯浅広川消防組合の指導による各種防災実技訓練

ねらい

- 1 高校生の防災意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる人材の育成を目指す。
- 2 関係機関と連携し、防災・減災に関するより専門的な知識を習得する。

主なプログラム

- 開講式
- 実技訓練
 1. 起震車による体験
 2. ロープワーク
 3. 救助袋による降下訓練
 4. 119番通報訓練
 5. タンカでの搬送
- 閉講式
- HR教室にて感想文

概要

体操服に更衣の上ハンドボールコートに集合して開講式を行う。学校長挨拶・湯浅広川消防組合よりの講話のあと、上記5つのプログラムを湯浅広川消防組合指導の下、クラス単位で各種目30分間のローテーションで実施する。実技訓練終了後、閉講式にて湯浅広川消防組合の講評を受け、HR教室にて感想文を書く。



開講式



起震車による体験



ロープワーク



救助袋による降下



タンカでの搬送

参加者感想文

・人の運び方やロープのくくり方などは、一つの方法だけでなく何種類もの方法があることを知った。人を運ぶときには毛布や棒を使ったり、そのまま運んだりとその時の状況に応じて臨機応変に対応することが大事なんだと思った。ロープのくくり方は難しかった。

救助袋で脱出するという方法は、降りるときにコツがあるなと思った。今日やってみてあまり上手くできなかったのが緊急の時は一度冷静にならないと危険だなと思った。また119番通報や人の運び方、脱出の仕方などはいざという時に役立つと思うのでしっかりと覚えておきたい。

もし災害が起こったら自分の命を守りながら、地域の人や自分の近くにいる人も守れるような人間になりたいと思った。今日学んだことを家族に伝えたいと思う。

・和歌山県は近い将来、南海トラフ地震の発生で大きな被害を受けると言われています。そのため様々な防災・減災の知識が必要とされています。自分が知っていたことでも反復して学ぶことで、実際のパニックになるような状況でもその知識を発揮できるようになると思いました。

また今回の学習で、階段のないような場所に緊急で降下するための設備があることを知りました。体験する前は非常に怖かったですが、そつなく降りることができました。このことを活かして、実際の場面で救助袋の降下を経験したことのない人たちへどのように降りるかを説明することができたらいいなと思いました。

今回体験したすべてのことを実生活に活かしていきたいと思いました。今後起こる災害のために学ぶことができて良かったです。

成果と課題

目指す生徒像として、

- ①災害に対する危機意識を持ち、防災・減災に主体的に取り組む。
- ②災害発生時に自分の命を守るとともに、直後の救助活動に取り組む。
- ③災害後の活動に積極的に取り組む。

以上の3つを柱にして取り組んでいる。計画的に防災教育が行われ、生徒たちに防災・減災を自分事としてとらえさせ、高校生として何ができるかを考えるようになってきたことが成果としてあげられる。今後、どのように地域との連携を図っていけるかを検討し、行動に移せる体制づくりが課題である。